

ばれいしょ

担当者 技能研究員 太田和成

試験課題名	品種栽培展示圃
目的	食用、加工用の品種における栽培特性を比較、検討し生産技術の普及に資する
期待される成果	各品種の特性を把握するとともに、輪作体型と作付け指標に沿った計画的な作付けを推進する
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所、 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会芋部会

1 供試品種・資材

品種

※ 農林1号 キタアカリ 男爵薯 北海コガネ ノーザンルビー
コナフブキ

※基準品種

2 耕種概要

土 壤 ～ 灰色低地土 (埴壤土)

前 作 ～ 大豆・トマト・小麦

浴光催芽 ～ 4月27日 植え付け日 ～ 5月19日 収穫日 ～ 9月15日

栽植密度 畦幅75cm×株間30cm 4,444株/10a

3 土壌診断結果と施肥量

(1) 土壌診断結果

(mg/100g)

pH	EC	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.19	0.044	47.4	29.6	79.4	565.2	9.2

(2) 土改資材と堆肥 (kg/10a)

無

(3) 施肥内容 (成分量%)

基 肥 ～ 硫酸アンモニア (21 - 0 - 0) 5月19日 全層施肥
基 肥 ～ 粒状過磷酸石灰 (0 - 18 - 0) 5月19日 全層施肥
基 肥 ～ 硫酸加里 (0 - 0 - 50) 5月19日 全層施肥

(4) 肥料の要素量

(kg/10a)

		N	P	K
基 肥	硫酸アンモニア 24kg	5.0	—	—
基 肥	粒状過磷酸石灰 6.4kg	—	11.0	—
基 肥	硫酸加里 22kg	—	—	11.0
	合 計	5.0	11.0	11.0

4 調査項目

生育調査 ～ 浴光催芽始・植え付け・萌芽始・萌芽期・萌芽率・初期生育 (6月20日)
着蕾期・開花期・茎葉黄変期・枯凋期・疫病指数

収量調査 ～ 総収量・規格内割合・M以上の製品率

特性調査 ～ ライマン価

5 生育調査

項目	品種	農林1号	キタアカリ	男爵薯	コナフブキ	北海コガネ	ノーザンルビー
浴光催芽始		4月27日					
植え付け		5月19日					
萌芽始		6月5日	6月6日	6月5日	6月7日	6月9日	6月11日
萌芽期		6月8日	6月8日	6月8日	6月10日	6月13日	6月15日
萌芽率(%)		92.3	91.2	88.7	87.1	85.4	78.2
1期生育・6月20日(良5~不良)		3	4	3	3	3	2
着蕾期		6月24日	6月23日	6月23日	6月25日	6月25日	7月1日
開花期		6月30日	7月1日	6月29日	6月29日	7月2日	7月7日
茎葉黄変期		8月25日	8月20日	8月19日	8月28日	8月27日	8月21日
枯凋期		9月4日	8月29日	8月28日	9月5日	9月5日	8月28日
疫病指数(多5~少1)		2	3	3	2	2	3

6 収量調査

項目	品種	農林1号	キタアカリ	男爵薯	コナフブキ	北海コガネ	ノーザンルビー
総収量(kg/10a)		5,786	4,734	5,343	5,216	6,300	3,791
規格別収量(kg)	3L以上	86	0	430	127	779	169
	2L	947	467	790	453	1,425	486
	L	1,995	1,379	1,601	1,656	1,764	1,238
	LM	1,302	1,184	887	1,215	933	782
	M	630	841	413	726	720	542
	S	656	773	449	835	575	447
	外品	170	90	773	203	104	126
M以上の製品率(%)		85.8	81.8	77.3	79.9	89.2	84.5
ライマン価(%)		15.5	14.1	12.7	20.9	15.2	10.9

※規格 3L 260g 以上 2L 190~260g 未満 L 130~190g 未満 LM 90~130g 未満 M 70~90g 未満 S 70g 未満

7 病害虫防除履

殺虫剤			殺菌剤	
7月2日	オルトラン水和剤	1,000倍	4月27日	アグリマイシン100 100倍
			7月2日	ダコニールエース 1,000倍
			7月20日	ホライズンドライフロアブル 1,000倍
			8月2日	フロンサイド水和剤 1,000倍
			8月2日	スターナ水和剤 1,000倍

8 試験結果概要

(1) 生育経過

浴光催芽を4月27日に始め、5月19日に植え付けを行った。萌芽期は、6月8日で農林1号とキタアカリ、男爵薯が早くなった。最も遅かったのは、ノーザンルビーで6月15日となった。

着蕾期はキタアカリと男爵薯が早く、6月23日となった。ノーザンルビーは着蕾期も最も遅くなった。開花期は男爵薯とコナフブキが早く6月29日となった。

枯凋期は男爵薯とノーザンルビーが早く、8月28日となった。

(2) 収量調査結果

10a当たり総収量は、北海コガネが6,300kgで最も多い結果となった。農林1号は昨年より少ない収量となった。

M以上の製品率も北海コガネの89.2%が最も高かった。

ライマン価はコナフブキの20.9%が最も高くノーザンルビーが最も低く10.9%となった。

(3) 考察

本年度は高温・多雨といった天候不順で芋が急速に肥大しM以上の製品率が高くなったが、空洞が発生し品質が悪かった。また、ライマン価は昨年より高いが平年値より低くなった。

昨年度の収量低下要因であった疫病は、防除によってある程度抑えることができた。